

第4回三重県新エネルギービジョン推進会議議事概要

1. 日時 平成27年11月19日(木) 13:00~15:30
2. 場所 三重県教育文化会館5階大会議室(津市桜橋2-142)
3. 出席者 委員12名のうち、11名出席(別記1)
4. 会議の概要

平成27年11月17日(木)に第4回三重県新エネルギービジョン推進会議を開催し、三重県新エネルギービジョン(仮称)〈最終案〉について、意見交換を行いました。

5. 最終案への委員の主な意見

(1) 長期目標に関すること

- 新エネルギー導入量の原油換算・世帯換算の算定条件の記述が必要。
- COP21での新たな温暖化対策の枠組みの合意に向けて、日本では2013年度比で26%温室効果ガス削減目標を決定しており、新エネルギー導入による温室効果ガス削減効果について記載が望ましいのではないか。
- COP21において、日本が現在決定している温室効果ガス削減目標は、各国との交渉や中国経済等外的要因の影響により変動する可能性があるため、現時点で新エネルギー導入による温室効果ガス削減効果の記載は適切ではない。
- 温室効果ガス削減目標などの地球温暖化対策については、地球温暖化対策推進法に基づき、各県が地球温暖化対策実行計画を策定する必要があるため、新エネルギー導入による温室効果ガス削減目標は、法設置の会議体の議論に委ねて、本ビジョンでは新エネルギー導入促進に専念してはどうか。

(2) 取組方向1に関すること

- 農業用水だけでなく、上下水道を活用したマイクロ水力発電の取組も触れることが必要。
- 木質バイオマス発電所の整備が進むが、県内で利用可能な木質チップ燃料の確保に係る現状についての記述が必要。
- 木質バイオマスについては、森林保全・生態系保持の観点での補足説明が必要。
- 下水汚泥を活用したバイオガスの可能性について、検討してはどうか。

(3) 取組方向2に関すること

- 省エネ大賞(省エネセンター)の周知を加えたようだが、本ビジョンの趣旨をふまえると、新エネ大賞(新エネ財団)の周知がより必要。

(4) 取組方向3に関すること

○マイクロ水力発電など新エネルギーの活用をまちづくりにつなげていくことが必要。

(5) 取組方向4に関すること

○環境・エネルギー関連産業の育成と集積において、人材育成は重要であり、記述を充実することが必要。

○地域課題に着目した調査研究と人材育成については、三重大学をはじめとした高等教育機関との連携が重要。

(6) プロジェクトに関すること

○電力小売り自由化により、再生可能エネルギー固定価格買取制度に依存しないエネルギーの地産地消の枠組みも今後生まれてくる可能性がある。

○再生可能エネルギー固定価格買取制度を巡っては、逆に買取単価に自社で積み増しをして買取を行う事業者の動きもあるなど、本格自由化に向けた取組が広がりつつある。

(7) 表記

○10ページの豊かな自然とリサイクルの歴史を有する三重県という表記のうち、リサイクルという表記の修正が必要。

○18ページのバイオマス発電・熱利用のイメージ図のうち、バイオマス熱利用は、給湯以外の利用イメージ図もあった方が分かりやすい。

○30ページの中小水力発電について、今まで未利用であったという表記の必要性について、確認が必要。

○33ページの環境教育の実施と省エネ県民運動プロジェクトとの位置関係に距離があるため、見せ方の工夫が必要。

○33ページの環境教育の本文では、目的を明確にした上で手段を表記する必要がある。37ページ、39ページの(1)地域課題解決に向けた地域主体のまちづくりの支援、(2)防災まちづくりの支援、(3)継続可能な仕組みの検討については、「創エネ・蓄エネ・省エネ技術を活用した」取組であることを明記した方がよい。

○37ページの地域課題解決に向けた地域主体のまちづくりの支援と、38ページの現在進めているプロジェクトとの位置関係に距離があるため、写真を織り交ぜるなど工夫が必要。

○34ページの三重県次世代エネルギーパークのタイトルだけでは、意味合いが分からないため、タイトルの工夫が必要。

○46ページのイメージ図は、着床式洋上風力発電であり、浮体式洋上風力発電のイメージ図の追加が必要。

○用語解説に、マンション向けのエネルギーマネジメントシステムMEMSの追加が必要。

- 59ページの用語解説スマートメーターは、電気のスマートメーターだけでなく、ガスのスマートメーターもあるため、表記の修正が必要。
- 61ページの用語解説の都市ガスは、定義の確認が必要。
- 61ページの用語解説の燃料電池は、定置用燃料電池だけではないため、表記の修正が必要。
- 図解は、よりクリアな図解が望ましい。

(8) その他

- 新エネルギーを活用した新たなまちづくりが生まれてくることを期待したい。
- 自分たちもエネルギー問題に関し、1人1人の行動が役立つと感じられる活動につながっていききたい。
- 計画に三重県らしさが出てきた。他県比較もふまえて積極的にPRしてほしい。
- 計画を通じて、地域づくりと人づくりを進めていただきたい。
- 計画を県民の方に理解いただくことが最も重要なことである。
- 計画を大学1年生のゼミの議論に活用していききたい。
- 環境教育の場で新エネルギーのメリット、デメリットをより身近に分かりやすく伝えていききたい。
- 計画に関するレポートを作成し、関係者及び県民に情報発信していききたい。
- 計画を学校教育やイベントで活用していききたい。
- 住民の方にいかに情報を広げていけるのかが最も大切なことである。基本理念、基本方針を分かりやすい絵に描いて、様々な場所でPRいただきたい。

以上

(別記1)

氏名	役職名
伊藤 周広	中部経済産業局 資源エネルギー環境部 エネルギー対策課長
先浦 宏紀	株式会社三重銀総研 総務部長兼調査部主席研究員
高橋 幸照	水土里ネット立梅用水 事務局長
多森 成子	三重テレビ放送気象キャスター、気象予報士
辻 保彦	辻製油株式会社 代表取締役会長 うれし野アグリ株式会社 代表取締役社長 松阪木質バイオマス熱利用協同組合 理事長
◎手塚 哲央	京都大学大学院 エネルギー科学研究科 教授
といだ 樋田 直也	本田技研工業株式会社 事業企画統括部 スマートコミュニティ企画室長 主任技師
○並河 良一	帝京大学 経済学部経済学科 教授
ばんない 坂内 正明	三重大学大学院 地域イノベーション学研究科 教授
前田 世利子	伊勢おはらい町会議 会長
矢口 芳枝	(一般社団法人) 四日市大学エネルギー環境教育研究会 副会長兼事務局長

※敬称略 五十音順、◎座長、○副座長